

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、10月の予察情報を送付します。

病虫害発生予報（10月）

令和 7 年 9 月 30 日
愛 媛 県

1 予報の概要

作物名	病虫害名	発生量	その他
水稻	トビイロウンカ	少	
大豆	吸実性カメムシ類 ハスモンヨトウ	やや多 やや少～並	
かんきつ	かいよう病 褐色腐敗病 貯蔵病害（緑かび病・青かび病） ミカンハダニ	並 並～やや多 並～やや多 並	
かき	炭疽病	並～やや多	
果樹共通	果樹カメムシ類	並～やや多	
いちご	アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 やや少～並	
冬春野菜全般	アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ オオタバコガ	並 並 やや少～並 並～やや多 並～やや多	

2 気象予報（高松地方气象台）

1 か月予報（令和 7 年 9 月 25 日発表）の解説

向こう 1 か月の天候の見通し 四国地方（9 月 27 日～10 月 26 日）

【1 か月の平均気温・降水量・日照時間】

	平均気温（1 か月）	降水量（1 か月）	日照時間（1 か月）
四国地方	低 10 並 10 高 80% 高い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み

【予報のポイント】

- ・ 6 月中旬以降、暖かい空気に覆われ、気温のかなり高い状態が続いています。向こう 1 か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・ 低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

3 病虫害の発生予想

水 稻

(1) トビイロウンカ

ア 予報の内容 発生量：少

イ 予報の根拠

(ア) 9 月中旬の定点調査では、発生を確認していない。

- (イ) 本虫による坪枯れ被害は、巡回調査等でも確認していない。
- (ウ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものとみられる。

ウ 防除上の注意

- (ア) 発生は圃場間差や圃場内での偏りがあるため、圃場全体を注意して見回り、黄化症状などの変化を見逃さないよう注意する。
- (イ) 黄化や坪枯れ症状がみられた場合は、農薬使用基準に留意し、早急に応急防除を実施する。
- (ウ) 坪枯れ被害の発生圃場では、可能な限り収穫を早めて被害の拡大を防ぐ。

大 豆

(1) 吸実性カメムシ類

ア 予報の内容 発生量：やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 予察灯によるミナミアオカメムシの誘殺数は、全ての地点で平年より多くなっている（病害虫防除所ホームページ掲載データを参照）。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものとみられる。

ウ 防除上の注意

- (ア) 莢伸長終期から子実肥大終期にかけて吸汁被害が多くなるので、防除は子実肥大期に10～15日間隔で2回程度実施する。
- (イ) ミナミアオカメムシについては、特に10月以降、収穫終了後の普通期水稻からの移動により密度が高まることがあるので注意する。

かんきつ

(1) かいよう病

ア 予報の内容 発生量：並

イ 予報の根拠

- (ア) 9月中旬の定点調査では、葉の発病率はやや少、発病度は少、果実の発病率はやや少、発病度は平年並の発生である。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 発病果や発病枝葉は早期に除去し、園内の病原菌密度の低下を図る。
- (イ) 強風により付傷すると発病が助長されるので、薬剤散布や防風対策を講じる。
- (ウ) ミカンハモグリガの食害痕は病原細菌の侵入箇所となるので、夏秋梢の除去、防除を行う。
- (エ) 甘平、愛媛果試第48号、はれひめ等の罹病性品種は注意する。

(2) 褐色腐敗病

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 9月中旬の定点調査では、発生を確認していない。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 園内の排水や通風を良くする。
- (イ) 敷きわらやマルチなどで、雨水による病原菌の跳ね上がりを防ぐ。
- (ウ) 発病果は二次伝染の原因となるので、発見次第園外で適切に処分する。
- (エ) 薬剤防除は、発生してからでは十分な効果が得られないので、発生前（降雨前）に行う。

(3) 貯蔵病害（緑かび病・青かび病）

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 果実品質は、糖度は極早生品種で低く、早生品種で平年並、クエン酸は極早生品種で低く、早生品種では平年並である（9/20 現在）。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

- (ア) 果実は、収穫時に果皮を傷つけないように取り扱う。また、降雨直後など果面が濡れている場合には収穫しない。
- (イ) 収穫後の予措、貯蔵中の温湿度管理を適正に行い、腐敗果は発見次第除去する。

(ウ) 散布後 100mm の降雨があった場合には、追加散布を行う。

(4) ミカンハダニ

ア 予報の内容 発生量：並

イ 予報の根拠

(ア) 9月中旬の定点調査では、寄生葉率、1葉当たり雌成虫数ともに平年並の発生である。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものとみられる。

ウ 防除上の注意

(ア) 園内の早期多発樹で、1葉当たりの雌成虫が平均2～3頭に達した時期が防除の目安となる。

(イ) 秋季は果実や葉裏への寄生が増加するので、薬剤はかけむらのないように散布する。

か き

(1) 炭疽病

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

(ア) 9月中旬の定点調査では、果実の発生は平年並である。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、発生にやや助長的である。

ウ 防除上の注意

(ア) 園地観察に努め、発病枝及び発病果実は早期に除去し、園外で適切に処分する。

(イ) 果実の感受性が高まる時期となるので、常発地では定期防除に努め、天候不順が続けば追加防除を実施する。

果樹共通 (かんきつ、かき等)

(1) 果樹カメムシ類

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

(令和7年9月30日付け令和7年度病害虫防除技術情報(第6号)参照)

野 菜

(1) アブラムシ類 (いちご、冬春野菜全般)

ア 予報の内容 発生量：並

イ 予報の根拠

(ア) 9月中旬の定点調査では、夏秋なすでやや多、さといもでやや少の発生である。

(イ) 黄色粘着トラップによる有翅アブラムシの誘殺数は、1地点(大洲市)で多く、2地点(西条市、松山市)では平年並で推移している(病害虫防除所ホームページ掲載データ参照)。

(ウ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものと見られる。

ウ 防除上の注意

(ア) 圃場観察により早期発見に努め、低密度時に防除する。

(イ) いちごではミツバチや天敵類への影響を考慮し、薬剤を選定する。

(2) ハダニ類 (いちご、冬春野菜全般)

ア 予報の内容 発生量：並

イ 予報の根拠

(ア) 9月中旬の定点調査では、夏秋なす、さといもともに平年並の発生である。

(イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものと見られる。

ウ 防除上の注意

(ア) 圃場観察により早期発見に努め、低密度時に防除する。

(イ) 同一薬剤の連用を避け、ローテーション使用を心掛ける。

(ウ) ハダニ類は雑草でも繁殖するので、圃場内外の除草に努める。

(エ) いちごではミツバチや天敵類への影響を考慮し、薬剤を選定する。

(3) ハスモンヨトウ (大豆、いちご、冬春野菜全般)

ア 予報の内容 発生量：やや少～並

イ 予報の根拠

(ア) 9月の大豆の広域調査では、白変箇所数、食害度ともに平年並の発生である。

(イ) 9月中旬の定点調査では、さといもの食害面積率は平年並、寄生虫数/20葉はやや少の発生である。

- (ウ) 性フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は、全ての調査地点（7地点）で平年に比べ少なく推移している（病害虫防除所ホームページ掲載データを参照）。
- (エ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものとみられる。

ウ 防除上の注意

- (ア) 産卵は卵塊で行われ、ふ化後間もない幼虫は集団で葉を加害するので、発見次第除去し、適切に処分する。
- (イ) 幼虫が成長すると薬剤の効果が低下し、食害量も増加してくるので、幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。
- (ウ) 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。

(4) シロイチモジヨトウ（冬春野菜全般）

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 性フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は、5地点中2地点（松山市、伊予市）で多くなっているが、3地点では平年並～少なく推移している（病害虫防除所ホームページ掲載データを参照）。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものとみられる。

ウ 防除上の注意

- (ア) 圃場観察により幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。

(5) オオタバコガ（冬春野菜全般）

ア 予報の内容 発生量：並～やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 性フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は、5地点中2地点（西条市、松前町）で多くなっているが、3地点では平年並～少なく推移している（病害虫防除所ホームページ掲載データを参照）。
- (イ) 気象予報では、気温は高い、降水量は平年並か多い見込みとされており、現在の発生傾向が続くものとみられる。

ウ 防除上の注意

- (ア) 圃場観察により幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。

【病害虫発生予察情報】

愛媛県病害虫防除所ホームページでご覧になれます。

ホームページアドレスは、<https://www.pref.ehime.jp/site/byocyubojol/>

【農薬使用時の注意】

- ◎農薬の選定にあたっては、農薬取締法に基づき登録された農薬から選定しましょう。
- ◎農作物の安全性を確保するため、農薬の使用にあたっては、適用作物、使用回数、使用時期、使用濃度、使用量、使用方法等の使用基準を遵守しましょう。
- ◎病害虫等の発生を的確に把握し、適時適切な経済防除に努め、農薬や労力等の低投入を図るとともに、低毒性農薬を使用しましょう。
- ◎農薬による防除のみに頼らず、耕種的防除法、物理的防除法及び天敵導入等を積極的に取り入れた総合防除を推進しましょう。
- ◎同一薬剤の連用は耐性菌、抵抗性害虫の出現や助長をまねくので、農薬のローテーション使用を心掛けましょう。
- ◎農薬の使用にあたっては、当該散布場所の地形、当日の気象、養蚕、養蜂、その他の環境条件を考慮し、周辺環境に影響の少ない薬剤を選定するとともに、危害の未然防止や環境の保全に努め、農薬事故防止対策を徹底しましょう。
- ◎農薬を使用する際、農薬のラベルに記載された登録内容、使用上の注意事項等を遵守し、農薬の散布にあたっては、農薬の種類に応じた保護具を必ず装着しましょう。